理事長室だより

第　ニ　号

平成　十五　年　七　月

鹿児島陸上競技協会　発行

追　憶

副会長　野中　達郎

先日、久しぶりの梅雨の晴れ間を利用して、長い間雑然として倉庫に眠っていた書類等の整 理をした。残しておけば何時かは役立つ事があるかもしれないと保管していた資料である。それらの中に、今では貴重と考えられる昭和四十七年鹿児島開催の第二十七回国民体育大会を写真入りで編集した「太陽国体グラフ」が有った。

天皇杯・皇后杯獲得のために全力を尽くした選手たちの活躍の様子が生々しく描き出され、臨場感溢れるグラフである。その中には陸上競技で活躍した選手の雄姿が最初に掲載されている。思いをその頃に馳せれば、地元開催国体での好成績をターゲットにして数年間、監督・コーチ・選手・関係者がそれこそ寝食を忘れるくらいの思いで精進・努力・精根を傾注した結果が見事に稔り結実した輝かしい成果である。その時の様相がグラフに再現されて、有りし日の懐かしさも加わり、ひと時の感動に浸った次第である。脳裏をよぎる当時活躍した選手たちは、今は有能な社会人として、それぞれの立場で選手の時以上に逞しく社会に多大な貢献をしている。その日から幾星霜を重ねた今日まで、歴代の陸協関係者、職場や学校の指導者、監督・コーチ・選手たちが、県の栄誉を担って懸命の努力の積み重ねにより確固たる素晴らしい伝統を創り上げ、それを更に大きく飛躍させ守り継いでいる姿に心からエールを贈る次第である。

話題が一転する。先日県下一周駅伝の新しいコースが決定し発表された。五十一回大会からこのコースで熾烈な競走が展開される運びとなる。如何に県民定着の県下一周駅伝と言えども道路使用の優先権はない。現今の厳しい交通状況下で共存する方向を探り出すべく関係諸機関が綿密な調査と英知を集めて検討を重ねた結果であり、今回のコースはベターであると考える奇しくもこの折りに、先述のとおり資料整理の中から、私が大島教育事務局在任中に大島の関係者や選手用に作成し配布した「県下一周駅伝競走大会コース説明」が見つかった。これを探していた訳ではないので、何か偶然の一致で不思議な因縁を覚える。四〇ページで五日間の全コース状況の案内、チェックポイントとする地点の距離表示等を明記して、コース不案内の選手たちにレースに臨む前の不安感を解消させ、実力を発揮できるレースを展開させる狙いで、それこそ心血を注いで作成した資料である。そのためかどうかは解らないがレースに対しての意識改革ができ、記録向上に役立ち苦労が報われて嬉しく思った。当時の大島の監督・選手たちとの交流は今もなお続いており、定年を迎えた折り大島で慰労会を催してくれ、人の情けが如何に厚く美しいものであるかを実感した。「情けは人の為ならじ」誠に名言である。反故同然になってしまっていた蔵書が偶然の機会を得て再出現し、それが感銘を与えてくれ、古びていた脳細胞を多少なりとも活性化させてくれた事はとてつもなく大きな収穫であった。「古きを温ねて新しきを知れば以って師たるべし」と孔子は論語の中で説いている。千数百年も前の教訓が今の時代にも間違いなく通用する。人は皆現在のみの事象に固辞することなく、過去の歴史を探求して理解し、現代への認識を深め、そして遥かなる未来への夢を大いなる視野をもって展望する見方、考え方、生き方はとても有意義で大切をことと思う。老いの一徹、自重自戒し、ささやかなりとも　向上を目指したい。「年々歳々花相似たり、年々歳々人同じからず」とか。

鹿陸上界を支える中学校指導者への願い

副理事長　松下　安喜男

初めに、この「理事長室だより」の発刊に、快くご協力くださいました役員の方々、並びに関係各位に心からお礼を申し上げ、今後の更なるご指導をお願いする次第です。

さて今年度、妻鹿理事長を軸とする新しい執行部が発足しましたが、私も微力ながらスタッフの一員として理事長を支えてまいりたいと思います。よろしくお願い申し上げます。

ところで、指導者にとって陸上競技の良さは数多くの種目があることです。オールラウンドな身体づくりに努めながら、生徒一人一人の能力や個性を見極めて主とする種目を考えてやることが大切です。私がT中学校に勤務している時、体力診断ではバネなし、スピードなしの男生徒を走高跳に取り組ませ、大学では二メートルを超す選手に成長してくれた。　一方、人並み外れたバネを持ち、スピード抜群の生徒は跳躍種目ではなく、高校・大学で短距離の選手（一〇秒台）として活躍した。このように中学校での指導は大変難しい面もあるが、陸上運動の楽しさや自分の能力を最大限に発揮できた時の嬉しさを味わせる指導を心がけることが大事だと思います。中学校で燃え尽きず、余力を残して高校や学生、社会人として花開く生徒を育てる指導者を目指してほしいと思います。理事長が申すまでもなく選手強化と普及は陸上競技界の両輪であり、本県陸上競技界を支えるのは中学校の指導者であるとの気概を持ってお取り組みをお願いしたいと思います。皆さんのこれまでのご努力に敬意を表すると共に、更なるご精進を期待します。

「ユニバーシアード陸上」日本代表に決定

全日本インカレの五〇〇〇米・一〇〇〇〇米　に優勝した 橋ノ口滝一選手（山梨学院大佐農林高卒）が八月、韓国の大邱で開催されるユニバーシアード陸上に出場することが決定。世界の強豪とのレースに健闘を期待したい。

第五十一回県下一周市郡対抗駅伝競走大会第一回合同運営委員会

開催標記運営委員会が十二地区の監督ら出席のもと六月二十五日開催され、大会を来春二月十四日から五日間実施することを決めた。幹線道路の渋滞解消と中継所の混雑・事故防止などレースの安全確保を目的に、第三日目のスタートを川内市から野田町に変更するなど計二十七区間のコース見直し案が了承された。コースはこれまでの五十一区間　五七七・二キロから五十三区間　五九五・四キロに増えた。これまでになく大幅なコース見直しとなったが、二日目の串木野や阿久根、四日目と最終日の国分などでは市街地を走り、その間に国道の車両が流れやすいように工夫した。全国で伝統的な駅伝大会が中止される昨今、これまで五〇回の歴史を積み重ね、県民にとって一大スポーツイベントとなっている本大会が今後六〇回・七〇回大会へと継続して開催されて行くにも五十一回大会を将来に向っての再スタートの大会と位置づけて、ルールや審判法の見直し等にも着手していくことや「公道を使わせてもらって大会を開催している」という感謝の気持ちを持ってレースに臨むことも出席者全員で確認しあった。

第九州高校陸上競技大会二連覇

台風六号接近で順延となった標記大会は六月二〇～二十三日の四日間鹿児島で開催され、各県の予選会を勝ち抜いた次代を担う若き高校生達が悪天候をものともせず熱戦を展開、長崎インターハイに向けて力と技を存分に発揮してくれた。特に男女三八種目中二〇種目に優勝した沖縄県勢の活躍が光った。

本県勢では、男子一〇〇Ｍで島袋洋平（喜界）、五〇〇〇ＭＷで南雄大（樟南）、八種競技で鮫島雄樹（鹿商）が、女子八〇〇Ｍで谷口佳那（鹿女子）、一五〇〇Ｍで中島美希（神村学園）がそれぞれ見事優勝を飾り、男子二〇種目三三名、女子十五種目二五名、計五八名が長崎インターハイへの出場権を獲得した。晴れの舞台での健闘を期待したい。一方、毎日早朝から終日雨と汗でびっしょりなりながら高校生のために頑張っていただいた審判員・補助員に対して各県から感謝と称賛の声は大きなものがあった。

平成十四年度鹿児島陸協功労者表彰

標記功労者が次の四氏に決まり、県選手権大会で表彰されることになった。

◇鮫島　時則氏

永年にわたり熊毛地区陸協の理事長を務め地域における陸上競技の普及発展に尽力した

◇中尾　昭吉氏

太陽国体、全国高校総体をはじめ、多くの競技会で審判を務めるとともに、多くの名選手を育成した。

◇村山　純弘氏

全国高校総体をはじめ多くの競技会審判を永年務め、大会運営に貢献した。

◇松下安喜男氏

鹿陸協総務部長など永年にわたり本協会理事を務め、協会運営に貢献した。

日本陸連評議員会報告

標記評議員会が六月九日、横浜市で開催され次の事項について報告がなされた。（主なもの）

◇世界選手権大会(8/23～31 パリ)派遣選手決定？

◇日本選手権開催地決定　八十九回＝再来年（東京）・九十一回（大阪）を承認

◇全国中学校駅伝競走大会開催地について

・　平成十七年度までは、　千葉県

・　十八年度から二十三年度まで　山口県